

# 梅窓院通信

お盆号

No.83

2016/06/01

# 青山



1



2



3



4



5



6



7



8



9

- 1 お菓子を仏様に供える。左奥に中島住職。
- 2 大殿(本堂)前での洒水作法をする 上人。  
右奥が中島住職。
- 3 脇導師として表白を読み上げる中島住職。
- 4 散華を入れる華籠を手に行堂する中島住職。
- 5 大殿内に舞い散る散華と中島住職。
- 6 法要の前のお説教。梅窓院でもおなじみの 上人。
- 7 献茶式の前に舞臺が奉納された。
- 8 表千家宗匠による献茶式。
- 9 法要前に唱導師が法主と対面。右奥に中島住職。

## 住職挨拶

梅窓院第二十五世

## 中島 真成



平成二十八年も半年が過ぎました。皆様におかれましては、お変わりなくお過ごしのこととお喜び申し上げます。

さて、今号は増上寺の御忌の写真が誌面を飾ります。

四月七日、日中法要で唱導師を務められた長野寛慶寺住職 上人に乞われ、私が脇導師を務めさせていただきました。本来なら二人の脇導師とも長野の上人がお務めになるところですが、 上人が学生時代に梅窓院に随身されていたこと、私の弟子にあたることからの特別な

御要望とのことで、喜んで受けさせていただきました。事前の練習もあり、本番が無事にこなせたのは嬉しい限りです。

また、法要に参列していただいた皆様、お稚児さんで参拝していただいた皆様には、誌面をお借りして、心より御礼申し上げます。お礼ついでに恐縮ですが、五月の鎌倉光明寺への団体参拝にご参加いただいた皆様にも心よりお礼を申し上げます。お寺の各種行事に参加いただくことは、梅窓院一同の大きな励みになります。

さて、御忌の話に戻りますが、前日の六日は快晴だったのですが、七日は残念ながら天気予報通りの雨天となり、外でのお練り行列や庭儀式ができませんでした。少々大げさですが、生まれてこの方、肝心な日には必ず晴れてきた私にとっては、少々シヨックな雨でした(笑)。

最後になります。梅窓院の三か寺合同団体参拝が決まりました。八月末から九月にかけてニュージランドに参ります。詳細は同封されているチラシをご覧ください。私はだいぶ前に一度訪れ、ラグビー柄のネクタイを求めましたが、まだ一度も着けていません。五郎丸選手をはじめラグビーブームの今日の頃、団体参拝には締めて行こうと思っております。

ふるさと盆

新宿区 香蓮寺住職

勝崎裕彦

お盆——、ふるさとのある人は故郷へ帰る。お正月とともに、帰省ラッシュは日本列島の定番である。ふるさとを思うなつかしき、ふるさとを慕うせつなさ。父母はいかにいます、兄弟姉妹は、知人友人は……。そうした昔からの人々の心の伝統は、時代が変わって日常の暮らし方や人々のあり方が大きく様変わりした現在も、決して忘れられてはいないと思う。

石田波郷と深く親交し、水原秋桜子の『馬酔木』の同人であった杉山岳陽の句。ずばり、ふるさとへの思いを墓参りへの一事に託した一句である。

古里にふたりそろひて生身魂

(青歌)

私は、遠くふるさとを持つ人々だけに、都市部や市街地近郊に暮らす多くの人々の心の中に生きているふるさとごころの大切さを声を大にして強調したい。ふるさとごころを持つ、ふるさとごころを作る気持ち推奨して、ふるさとをなつかしむ思いに加えて、日本文化のなつかしい習俗を正しく受け継いで、今の世の中にしっかりと伝えて行きたいと思う。

生身魂は、生御魂・生見玉とも書き、生き盆ともいう。亡くなった人でなく、祖父母や両親など、年長の人、目上の人を尊び、敬慕して、食べ物をはじめ、いろいろな物を捧げて尊礼をとる習俗である。虚子門4Sの一人、阿波野青畝は仏教俳句を数多く作句した人であるが、まさに父母二人健在の、とつてもすばらしいふるさと盆の一句である。

母人や病をおして魂まつり

(枊童)

山下りてきて盃蘭盆の村の中

(志解樹)

迎火や海よりのぼる村の道

(拓夫)

ふるさとや墓洗ふことのみに来て

(岳陽)

ふるさとの山、ふるさとの海——、ふるさとのうるわしい山河や海辺に

ふるさとのうるわしい山河や海辺に

あつて、日本列島のいずこにも見かけたかつての村里のお盆景色に思いを馳せる句である。青柳志解樹は、信州長野の人で『山暦』を主宰し、中拓夫は神奈川県小田原に生まれて『寒雷』や『杉』の同人である。

母の手恋し揉んでツと押す盆団子

(草田男)

私にとつて、ふるさとのお盆といえは亡くなった母へのなつかしさ、慕わしさが募るばかりである。

虚子門の大家である中村草田男の句にも、同じく虚子門の逸材である清原枊童の句にも、私自身が共有する思い出がある。

さて、ふるさと盆のなつかしさ、ゆかしさを思いながら、ふるさとごころを私たち自身の心の中に持ち続ける、作り上げることの大切さを強く実感するのである。そして、それはふるさと盆に包み込まれた仏心を育てはぐくむなつかしさ、ゆかしさである。

ふるさとのうるわしい山河や海辺に

(大正大学前学長)

三月・四月の

行事報告

平成二十八年春彼岸法要 三月二十日(日)



法要



寄席



大殿にて。

はなまつり 4月6日(水)~8日(金)



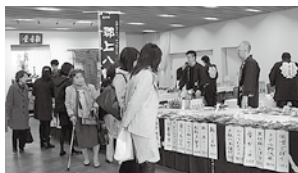
花御堂

増上寺詠唱奉納大会 4月3日(日)

増上寺御忌大会団体参拝 4月7日(木)



法要後の記念撮影。



今年も19・20日と郡上八幡物産展を開催致しました。



尼僧によって動物慰霊法要が執り行われました。

# お盆

## 七月十三日(水)

孟蘭盆会法要 — 午前十時半〜 地下二階 祖師堂

## 御棚経

### 七月十三日〜十五日

御棚経については同封の別紙「お盆について」をご覧下さい。また、不明な点がありましたら梅窓院法務部へお問い合わせ下さい。

### 孟蘭盆会回向のお申込み方法とお知らせ

#### ◆孟蘭盆会 塔婆・回向お申込み方法

孟蘭盆会法要に關しましては短冊でのお申込みを取りやめ、ハガキで「塔婆回向」と「回向のみ」を、御一緒にお申込み頂けるようになります。

それぞれ冥加料が異なりますのでご注意ください。

塔婆回向一本 …………… 七千円

御回向料一霊 …………… 三千円

#### お申込み方法

同封葉書にご記入の上、七月一日必着でお申込み下さい。ハガキの書き方は同封の「書き方例」をご参照下さい。

#### お支払方法

同封の振込用紙で郵便局にてお支払頂くか、当院受付までお持ち下さい。銀行・コンビニでのお支払はできません。

ご不明な点は梅窓院受付までお問い合わせ下さい。

### お盆に寄せて

日本でのお盆の歴史は古く、『日本書紀』によると、推古天皇十四（六〇六）年に初めてお盆の行事が行われたと伝えられています。

さて、お盆・孟蘭盆は、「孟蘭盆経」という經典に説かれ、梵語（サンスクリット語）の「ウランバナ」に由来し、「逆さまに吊るされるような苦しみ」を除くという意味の行事です。

この經典によれば、お釈迦様の十大弟子の一人、目連尊者の母親が迷いあるものが輪廻するといふ六道の一つである餓鬼の世界に落ちて、苦しみにあえいでいたのを救う話に由来しています。

お釈迦様にお聞きすると、「夏の九十日間の修行を終えた僧たちが、七月十五日に集まって反省会を行うから、

その人たちにご馳走をして、心から供養しなさい」とおっしゃいました。

そのお言葉の通り実行すると、目連尊者の母親は、餓鬼の苦しみから救われたのです。実はこの母親は、生前息子可愛さのあまり、人様への施しを物惜しみしていました。餓鬼の世界に落ちたのは、その報いだっただけなのです。

この教えの意図するところは、肉親・縁者だけではなく、自分とはあまり縁のない人々に施し、ご回向することが大切であるということなのでしょう。これがお盆の行事の始まりです。

このように意義深いお盆ですので、各ご家庭の仏壇等に盆花を飾り、ご馳走をお供えして、ご先祖をお迎えしましょう。また、ご家族そろってお参りができれば、きつとご先祖様も一層お慶びになることでしょう。

（法務部・関崎）



あんごくでん  
安国殿の皇女和宮像。



ていぎしき  
庭儀式

日中法要で、唱導師が法要を無事に務められることを祈念する大殿の前で行う儀式です。見どころのひとつです。

**お練り行列**  
唱導師を主役として大門から大殿（本堂）まで歩く行列で、さながら江戸時代の絵巻を見るようです。



**舞楽奉納**

大殿（本堂）の前で毎日披露されます。日本伝統の音色に面を付けた舞いが楽しめます。

今年四月には梅窓院  
中島住職が御忌法要の  
脇導師として出座され  
ました。その時の様子  
とともに増上寺の御忌  
を写真で紹介します。



浄土宗大本山増上寺の最大の行事

ぎよき  
「御忌」の  
見どころ楽しみ方

毎年四月、桜の季節に浄土宗大本山増上寺の最大行事である御忌が行われます。「御忌」とは、天皇から浄土宗を開かれた法然上人の年忌法要にだけ使ったよいと許された言葉で、念仏を称えれば誰もが救われる、という教えを説かれた上人への報恩謝徳の想いを各種法要や催し物で表す行事です。

浄土宗の総大本山で行われていますが、増上寺では、かつて上人が往生された一月に行っていたものを穩やかな四月に移して、多くの参拝者に上人の徳を知ってもらう最大の行事にしました。

各種法要はもちろん、お練り行列、お稚児さん、舞楽や献茶、徳川霊廟の公開を始め各種展示や茶席、さらにお土産店や屋台など、今では港区の春を代表する行事の一つになりました。

【主な行事】

- 初日 開白法要・献茶式
- 二日目 詠唱奉納大会
- 三日目 詠唱奉納大会
- 四日目 法要
- 五日目 法要
- 六日目 降誕会 法要



詠唱奉納大会

二日にわたって法然上人の和歌やお寺のご詠歌などを聴くことができます。

◎初日は増上寺の法主（住職）が導師を務める法要と、表千家の宗匠のお点前を目の前で見られる献茶式が行われます。

◎二～三日目の詠唱奉納大会は東日本の詠唱会が参加、日ごろの練習の成果を仏様に奉納します。もちろん梅窓院の詠唱会も毎年奉納しています。

◎四～六日目の法要は、十時からの晨朝法要、十四時からの日中法要、十五時半からの日没法要とわかれますが、日中法要では東日本の各エリアからの代表が唱導師を務める法要で、さまざまに法要が執り行われます。



### 書道展

浄土宗児童教化連盟が主催する書道展では、全国の子供たちの達筆な書が展示されます。



### 念仏

法然上人の勤めるお念仏を自由に実践できる圓光大師堂があります。外国人の参拝も多く、英文での念仏説明も掲示されています。



### お茶席

初日には表千家によるお茶席が、2日目からは写真の皇女和宮にちなんだ茶室、貞恭庵でお茶を味わえます。



### 増上寺土産

名物の葵の御紋の入ったオリジナルクッキーが販売されます。

### お守り

徳川家康公にちなんだオリジナルお守りを始め、安国殿にはご利益のあるお守りが並びます。



### 徳川家墓所公開

徳川家の歴代将軍やその正室、皇女和宮の墓所が公開されます。



### 物産店と屋台

各種粉物やおモチャの屋台、そして、青年会が主催する復興支援の物産店とお腹の心配も無用です。



### 経蔵公開

大蔵経という膨大な経本をしまう回転式書庫(写真右)が見学できます。



昨年4月から宝物展示室が開設されました。徳川二代将軍の御霊屋の模型が常設で展示されるほか、各種展示を楽しめます。

### 【法要のあれこれ】

#### ● 四日目の法要

晨朝は朝の法要で、増上寺の執事長が導師を務める法要です。

日中は声明法要と申して、増上寺独特の声明が堂内に響き渡ります。

日没は御歴代大僧正年忌法要などを行います。

#### ● 五日目の法要

晨朝は一宗法要と申して、浄土宗の法要です。

日中は引声阿弥陀経の法要です。

日没は施餓鬼会と百萬霊の回向をします。

#### ● 六日目の法要

晨朝は法然上人の誕生日を祝う法要です。

日中は浄土法事讃と申して阿弥陀様と極楽浄土を讃えます。

日没は増上寺の法主(住職)が御忌を終える結願の法要を行います。

初日から最終日まで、境内では多くの行事が行われています。ぶらりと散策もよし、案内所で地図をもらって目指す場所へ一直線もよし。四月初旬の春の穏やかな日にぜひ足を運んでみてください。



四月七日の日中法要後に、水科上人の奥様、お嬢様たちと二人の協導師で記念写真。右端が中島住職。

囲む人々の梅真会シリーズで13人目、かつ宮城県のお寺出身では4人目となる今回の主役は、宮城県栗駒の往生寺住職、上人です。法然上人の直接の弟子で、東北に念仏の教えを広められた金光上人が東北で最初に開山した寺、という古刹であり、名刹でもある往生寺に伺いました。

◆本日はよろしくお願ひ致します。

『青山』のこのコーナー、梅真会シリーズは欠かさず読んでいます。懐かしい話やお世話になった先輩、一緒に遊んで学んだ同僚が登場しますからね。

◆やはりいい思い出でしょうか。

先輩のコメントにありましたが、私も「青春時代」より「梅窓院時代」のほうがしっくりくる(笑)、今振り返っても梅窓院の時代が人生で一番いい思い出です。

◆先々代の中島真孝住職が遷化された直後の昭和49年の4月に梅窓院の寮に入られたと聞いています。

ええ、3月30日が真孝上人の命日で、私が4月7日ですから、本当に遷化された直後で、しばらくは大正大学には行けず、電話番号や先輩の手足として手伝っていました。

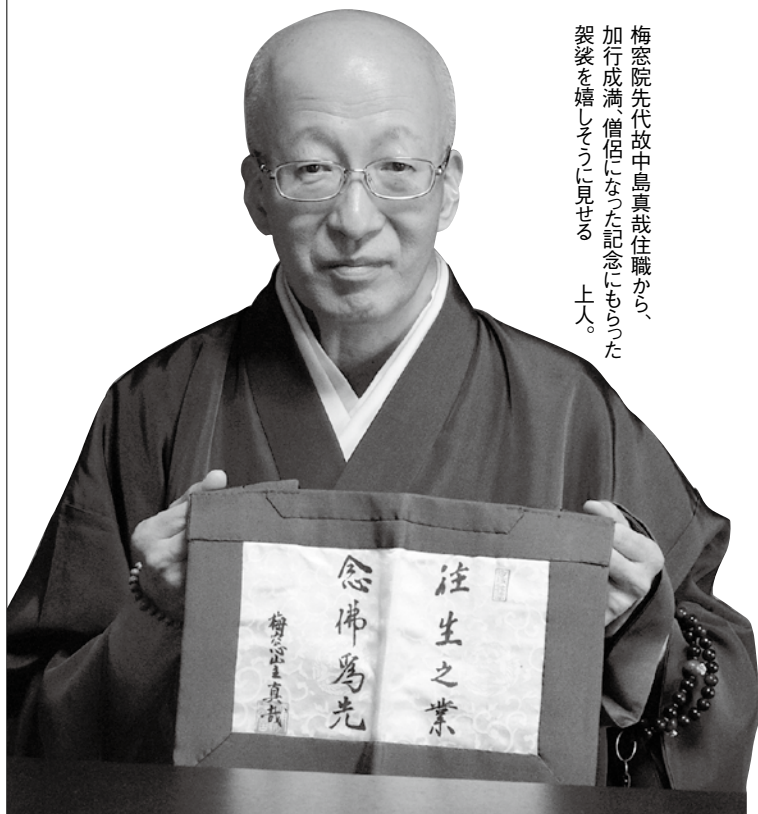
◆梅窓院の印象はいかがでしたか。

お寺の前に、宮城でも岩手に近い田舎育ちですから、上野から乗った地下鉄の窮屈さと熱気、そして油くさに驚かされました。梅窓院には夕食の時間頃に着いたのですが、山門を入ると夜空に見事な桜が映えていて、綺麗でしたね。まだ、栗駒は寒かったので、冬ものの着物とコートで見上げていました。

◆昔は山門を入ると正面に桜がありましたからね。

同行してくれた往生寺先代住職である父と大きなお寺に圧倒されながら挨拶をさせていただき、父と別れ、夕食をいただきました。

自分の部屋に案内されると、チッキという昔の宅配便みたいなものですが、田舎の栗原電鉄に預けた荷物が部屋に届いていて、これも感動でしたね。



梅窓院先代故中島真哉住職から、加行成満、僧侶になった記念にもつた袈裟を嬉しそうに見せる上人。



大きくはないが、とても落ち着いた佇まいの往生寺。風情漂う山門の前での 上人と中島住職。

◆まだ、二人部屋の頃ですね。

ええ、先輩と一緒にでした。

◆神奈川県三浦の 上人ですね。

豊嶋 やはり梅真会の後輩で、このコーナーにも登場した 上人が、この4月に増上寺で御忌の唱導師を務めた時、梅真会のメンバーも呼ばれ、先輩に40年ぶりに会ったのですが、思わず懐かしさのあまり涙が出ました。

◆そうですか、同じ増上寺にいたのですから、その感動的なシーンを見たかったですね。梅窓院での一番の思い出と言ったら何になるのでしょうか。

そうですね、新入生歓迎会、中島家と隨身一同と一緒に食べる夕食、たくさん飲ませていただいたお酒の思い出、奥様に教わったお茶など思い出したらきりがありませんが、やはり、先代真哉住職、方丈さんですね。

◆どんな思い出でしょう。

法要で一緒になった時に、方丈さんが、「玄関にポスター貼っておいたか」って聞くのです。自分で貼っていますから、「はい、貼ってあります」と答えました。すると次の日、また「ポスター貼ってあるか」って聞くのです。もちろん「はい、貼りました」と答える。

でも変だなと思い、その話を先輩にすると、「それは、単に貼ってあるかじゃなくて、きちんと貼ってあるか、と言う意味だ」と教えてくれました。すぐに貼ったポスターを見に行くと、なるほど曲がって貼ってある。方丈さんはこのことを言ったのだな、と合点がきました。

◆自分で考えさせた、ということですね。

そうです。方丈さんはキチンとしていて、まめな方でしたから、そういう細かい所まできちんと目が届く。この方丈さんの指導のお蔭で、国に戻って役場に勤めたのですが、役所に貼ってあるポスターがひとりで目に入り、期限の切れたもの、曲がっているもの、重なっているもの……、いつもきちんと直したくなる。気づく人はそういう自分を見てくれていましたね。

◆そうですか。いや山門に入る前から、細かい所まで行き届いたお寺だと感心していたのですが、この 上人の細やかな心遣いは梅窓院時代に培われたのですね。

そうですね、方丈さんのお蔭です。この袈裟、方丈さんから僧侶になった記念にもらったもので、今でも大事にしているのですよ。

◆あーっ、すごいですね。きっと先代真哉住職も喜んでいましたね。

今日はありがとうございました。

いえ、こちらこそ。また、遊びに来て下さい。

あまくさ

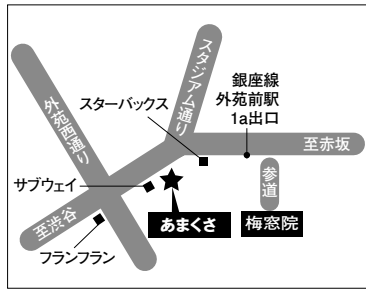
今回は外苑前駅から徒歩1分ほどの場所にある、地鶏割烹料理あまくさを紹介します。熊本の食材を使用した郷土料理のお店で、馬刺しや栗と有機野菜のみで育てたマロン豚の溶岩焼き、天草大王という日本最大級の大きな地鶏の水炊きがおすすです。中でも一番こだわっている水炊きを紹介します。

鶏ガラと野菜を10時間煮込んだ、黄色っぽい濃厚なスープが特徴で、加えて臭みを消すためにあえて骨なしの鶏肉を用いているのがオーナーのこだわりの一つです。濃厚なスープには



幻の地鶏のコラーゲンたっぷりの濃厚スープ水炊きが自慢のひと品

旨味が詰まっております、食材となる鶏肉はもちろんな野菜とも相性抜群。締めはチャンポン麺は濃厚なスープに絡み合い、満腹状態でもあつという間に食べられるほど美味しいです。また、時間を気にせず楽しめるようにと、基本的にお客様の入れ替えはしません。すべてはおお客様の喜ぶ顔がみたいからというお店のおもてなしが感じられます。



営業時間/ランチ ※お問い合わせ下さい。  
ディナー 17:00~23:00  
日曜定休  
席数/39席(1F/18席・2F/21席)  
住所/東京都港区南青山2-26-34  
北屋ビル1・2F  
TEL/03-6804-5151



木のぬくもりが感じられる外観とひときわ目立つ大きな看板が目印

青山俳壇

選者「ウェブ俳句通信」編集長

大崎紀夫

◎特選

○下戸なれどあの世の夫と花見酒

◎入選

○下萌や歩きはじめの赤き靴

○銀座通り場所憚らぬ恋鴉

○母の居ぬ今年も花は咲き誇る

○小津安の「晩春」らしき晩春に

○敏深きわが手ながめる春炬燵

○花冷の背中をさらに丸くして

○夕東風に乗りに戻らぬブーメラン

○甘茶仏小さき柄杓を二度三度

○記念樹に水をたつぷり卒業す

◎選者詠

○土手越えてくる遠足の子供たち

大崎 紀夫

◎ワンポイントアドバイス

俳句には基本型ともいえるべき型がいくつかあります。そのひとつが上五に「○○や」を置いて、下五に名詞あるいは動詞をもってくる型で、これももしかしらば俳句の「永遠の基本型」かもしれません。「山寺や少々重き夏布団」但春や塩まみれなる塩地蔵「春昼や魔法の利かぬ魔法壇」とかこの型の名句は「マン」とあります。この型をまずマスターすることが俳句初心者にとってはとても大事なことで、とりあえず何十句か作ってみてはいかがでしょう。

投句募集

今回は「夏の季語」でご自由にお詠み下さい。7月1日を締切り、9月発送の『秋彼岸号』にて発表致します。  
住所、氏名をお書き添えの上、ご応募下さい。尚、選者が添削し掲載する場合がございますのでご了承下さいませ。  
皆さまの投句をお待ちしております。  
〒107-0062 港区南青山2-26-38  
梅窓院「青山俳壇」投句募集係

「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡下さい。  
ウェブ編集室  
電話03-5368-1870

第六十三回  
食は命なり

夏バテむくみ防止に「スイカ」  
武鈴子 食養研究家

スイカは古くは「水瓜」の文字が使われていたようです。瓜の中でも水分が多いことから名づけられたと言われます。「西瓜」の文字は西から伝わった瓜という意味。

スイカの主成分は90%以上が水分だということ、たいした栄養価はないように思われますが、夏の暑さでほてった体の熱をさまし、喉の渇きをいやす作用は、暑気払い、夏バテ解消にうってつけな食べ物です。漢方薬の、喉の渇きが強い病気に処方される「白虎湯」に似た効用があるため「天然の白虎湯」とも呼ばれます。

スイカが利尿作用にすぐれていることはよく知られていますが、その効用は腎炎、膀胱炎、高血圧、妊娠時のむくみを解消します。一般に皮やタネは捨ててしましますが、皮は口内炎に、タネは肺の熱をさまし、腸や脾胃のふさがりを解消する妙薬として最たるもの、だと記されています。腎臓病の妙薬といわれ、スイカの果汁を濃縮した「スイカ糖」が、昔から民間薬として利用されてきました。

スイカ糖は、スイカを丸ごと潰してジューサーにかけ、その果汁を濾して、弱火で煮詰めていくもので、蜂蜜くらいにトロトロになったら出来上がり。これを夏の間に作り、常備しておいて腎臓病やむくみの治療に用いていました。

スイカはおいしい夏バテ予防の妙薬です!

## 行事予定

### 第68回 念仏と法話の会

6月8日(水)  
11時20分～(受付11時より開始)

### 開山忌法要・能楽奉納

6月11日(土)  
法要 午後3時～ 本堂  
能楽 午後4時～ 祖師堂

### 盂蘭盆会法要

7月13日(水)  
午前10時半より 祖師堂  
※詳細は3面をご覧ください。

### 三カ寺団体参拝旅行

—ニュージーランド—  
8月25日(木)～9月2日(金)  
祐天寺・傳通院・梅窓院の企画で、ニュージーランドに参ります。  
※詳細は同封のチラシをご覧ください。



## 平成28年度 前期 仏教講座のご案内

全講座▶午後6時～8時 受講料▶無料 場所▶祖師堂

講 題／おせがき・お盆を読む

講 師／阿川 正貫 先生(浄土寺住職、大正大学講師)  
●第3回…8月29日(月) おせがきとお盆～『盂蘭盆経』を読む②

講 題／法然上人ご法語を読む —「念仏往生要義抄」—

講 師／新井 俊定 先生(天然寺住職)  
●第1回…5月31日(火) 自力と他力  
●第2回…7月 6日(水) 出家者の念仏と在家者の念仏  
●第3回…9月 6日(火) 臨終の念仏と平生の念仏

講 題／大乘仏教を読む —『維摩経』シリーズ(3)

講 師／勝崎 裕彦 先生(大正大学前学長、香蓮寺住職)  
●第1回…6月16日(木) 不思議品第六の教え  
●第2回…7月28日(木) 観衆生品第七の教え  
●第3回…8月25日(木) 仏道品第八の教え

講 題／法然上人のみ教え —『選択集』を読む—

講 師／林田 康順 先生(大正大学教授、大本山増上寺布教師、慶岸寺副住職)  
●第3回…6月13日(月) 『選択集』第11章 念仏行者の誉れ(上)

講 題／死をふくむ幸福 ～豊かな「死の文化」の創造へ向けて～

講 師／本林 靖久 先生(大谷大学・佛教大学講師、真宗大谷派僧侶)  
●第1回…6月3日(金) ブータン人の死生観  
●第2回…8月5日(金) 日本人の死生観  
●第3回…9月9日(金) 死を見つめる大切さ

### 秋彼岸写真展開催

春彼岸号よりお伝えして参りました秋彼岸写真展の応募要項を同封致しました。是非皆様ご参加下さい。



発 行／梅窓院  
発 行 日／平成28年6月1日  
発 行 人／中島 真成  
編 集／青山文化村  
住 所／〒107-0062  
東京都港区南青山2-26-38  
電 話／03-3404-8447  
F A X／03-3404-8436  
ホームページ／<http://www.baisouin.or.jp/>  
E-Mail／[jodo@baisouin.or.jp](mailto:jodo@baisouin.or.jp)  
題 字／中村康隆元浄土門主  
総本山知恩院第八十六世門跡

### お檀家さんに伺いました

平成28年  
春彼岸法要にて

「初めて参加しました。」

昨年檀家になり、初めて春彼岸会に参加致しました。たくさん  
の催しが開催されていて驚きました。

催しの一つ郡上八幡物産展に立ち寄り、郡上踊り柄のネクタ

イを購入致しました。また、物産展の近くでお抹茶と一緒に桜の和菓子を頂き、とても美味しかったです。  
その後に春彼岸会に法要参列致しまして、詠唱の方々のご詠歌がとてもきれいで印象的でした。

初めての春彼岸でしたので、来年もどんな催しがあるか楽しみです。